



教育支援チーム「まつ」

「まつ」通信 No.8

2013年度の活動開始

— 学校訪問・総会・学校支援連絡会 —

2013年6月22日発行

■ 学校訪問—新年度のご挨拶回り— ■

4月24日と26日に、新年度のご挨拶もかねて、各学校を訪問させて頂きました。訪問したのは、小友小、広田小、米崎小、気仙小（気仙・長部小が統合）、矢作小、高田東中（小友・広田・米崎中が統合）、気仙中の7校です。新学期のお忙しい中でしたが、校長先生や副校長先生に対応して頂き、学校の近況などを伺ってきました。

どの学校からも、物資の不足はほぼなくなり、子どもたちも落ち着いている、というお話が多かったのですが、同時にその落ち着きの裏に、いろいろな「我慢」「不安」があることに言及されていました。未だに多くの子どもが狭く壁の薄い仮設住宅に暮らし、家族や近隣に気を遣いながら生活していること。スクールバスでの通学は、いくつもの仮設を回ったり、小中学生ともに同じスクールバスを使うことから、通学時間や下校時間が個々の学校の事情で決められないために、朝早く家を出なければならなかったり、逆に小学生でも中学生と同じ時間でしか家に帰ることができなかったり。グラウンドに仮設住宅が建っているために、体育は体育館でしかできなかったり、自分の学校のグラウンドでの運動会を経験できずに卒業する子どもがいるかもしれないこと。学校によって詳細は違いますが、全ては子どもや親、そして先生たちが「頑張れば何とかなる」といった類の問題ではありません。これらを「しょうがない」と語る先生方の言葉の裏に、「あきらめ」以上に「悔しさ」「やるせなさ」がにじんでいました。

教育支援チーム「まつ」にとっても、今回の訪問での先生方のお話は、すぐに「お手伝いできます」と言えるものではありません。それでも、学校訪問後の理事会では、学校独自のスクールバスがあれば親や子どもの負担が軽減すると話されたある小学校については、スクールバス確保の支援に動いてみようという事にしました。「しょうがない」と言わなくてすむ事が一つでも増えれば・・・。

市内では、4月以降、そこかしこで山林だったところの木が切られ、土地が削られている所が目立ち始めました。やっと高台移転の造成が始まったところだそうです。高台の移転用地を確保し、それから建物を建てるとなると、仮設住宅の暮らしを終えるのはまだ何年も先になります。今の「落ち着き」は、ある先生の言葉をお借りすれば「非日常の中の日常」に過ぎず、子どもたちはその中を今まさに生きています。その中で教育支援チーム「まつ」としてできることは何か、今まで以上に先生や子どもたちの現状を見つめ、感じながら、活動内容を考えていかなければならないと感じました。今年度は、昨年度以上に先生方の声に耳を傾けることを重視し、学校訪問に力を入れたいと思います。

■ 2013年度の事業計画が決まりました—定期総会開催— ■

5月31日（金）18:00より、米崎コミュニティーセンターで、教育支援チーム「まつ」の2013年度定期総会が行われました。2012年度の事業報告・決算報告・監査報告に続き、2013年度の事業計画、予算、役員が承認されました。2013年度の活動は以下の通りです。

- (1) 被災した子どもたちに対する長期的な見守り事業
 - ・子どもたちの様子や取り組みについての相談に対応。
 - ・子どもたちを対象に「C a f eまつぼっくり」を開放。
 - ・交流会の開催。
- (2) 被災学校に対するニーズ調査・支援事業

- ・学校訪問によるニーズ調査とそれに応じた対応。
- ・先生方を対象とした「C a f eまつぼっくり」の開放と「学習講演会」の開催。

(3) 学校支援連絡会の開催

(4) 被災地域の学校支援に関する普及啓発事業

- ・市内の教育支援諸団体との連携と情報交換。
- ・「まつ」通信の発行。

役員、事務局は昨年度と引き続き同じ体制で事業を推進していきます。

■2013年度第1回学校支援連絡会の開催■

定期総会終了後、支援対象の7校の校長先生あるいは副校長先生にお集まり頂き、教育支援チーム「まつ」役員、また当会の後方支援を続けて頂いているE d. ベンチャーの方とともに、「学校支援連絡会」を開催しました。この連絡会の目的は、被災各校の情報交換を行うとともに、参加者がともに被災地区の教育について考え合い、支え合う事です。今年度の第一回目は、年度当初ということもあるので、まず総会で承認された今年度の「まつ」の活動をご説明し、ご意見を頂いたり、各校の状況についてお話頂いたりしました。

各校の状況については、被災している家庭や子どもたちの配慮として、学校によって異なりますが、学級費やP T A会費などは義捐金を当て、家庭への負担を軽減しているという工夫が話されました。それでも、義捐金を使い続けて減っていくことの不安、逆に被災していてもしていなくても学校は平等に対応するので、支援に頼り続けていいかという不安に言及する先生もいらっしやいました。また、学校でもらったもの、使い終わった教材などを狭い仮設住宅に持ち帰ることを負担に思う子どもたちがおり、「持って帰らなくてもよい」と決めたという学校もありました。学校ごとの事情、さらには学校の中にある家庭ごとの事情を配慮しながら「平等の原則」との間で試行錯誤する学校や先生方のご苦勞が感じられました。

物資は足りているものの、子どもの文具など学校のストック分の中で足りない物が出てきているため、昨年度同様他で不用になった物資の再配分があるとよいというご意見や、狭い仮設住宅で勉強するスペースや自由な居場所がない生徒のための夏休み中の学習支援などについての要望も頂きました。今回出たご意見を元に、活動を具体化していきたいと思えます。

+++++

Cafeまつぼっくり オープン時間 土・日 10:00~16:00

※必要に応じて平日も開所しますので、ご連絡ください。

教育支援チーム「まつ」事務局対応時間 水~日(原則) 10:00~16:00

- メインのC a f eと和室が利用できます。
- パソコン、インターネット、プリンターが自由にお使い頂けます(無線LANあり)。
- 教育関連図書、震災関連図書、漫画などがあります。貸し出しもしています。
- 飲み物(コーヒー、緑茶、紅茶)は無料です。飲食物持ち込みOKです。

+++++

教育支援チーム「まつ」

〒029-2207 陸前高田市小友町字茗荷147-23 Cafeまつぼっくり内
Tel/Fax:0192-56-3325 e-mail: teammatsu01@gmail.com

寄付を募っています。ご協力をお願いします。

銀行名：東北労働金庫 支店名：高田支店 口座番号：普通5903255
口座名義：教育支援チーム「まつ」代表 鈴木正彦
(キョウイクシエンチームマツ ダイヒョウ スズキマサヒコ)